

目次

序 いま、なぜ戦後思想か…………… I

I
戦後思想の出発点

01 丸山眞男——日本発の「普遍的主体」像をめざして…………… 8

はじめに／現代日本政治論における「主体像」の模索…「夜店」の研究から／日本政治思想史研究における「主体像」の模索…「本店」の研究から／丸山眞男のめざした主体像とは…他者感覚への注目／おわりに

02 内田義彦——戦後啓蒙の「市民社会」論…………… 29

はじめに／講座派マルクス主義と「市民社会」／戦後社会のヴィジョン形成／「市民社会」の歴史哲学／「市民社会」と現代／おわりに

II 戦後思想の相対化

03 坂本義和——革新ナショナリズムの思想……………48

はじめに／「イデオロギー・トランスファアの弁証法」／「革新ナショナリズム」の原型／冷戦イデオロギーと「革新ナショナリズム」との相克／「ナショナリズム」への距離感と日本の防衛構想との交錯／冷戦終結と国連へのまなざし／おわりに

Column ① 戦後思想におけるマルクス主義——学問領域を横断した知の共通土台……………66

04 竹内好——「変革のための学問」をめざして……………70

はじめに／戦前社会の克服と「近代の超克」／「明治百年」祭の提起／「アジア主義」と「変革のための学問」／おわりに

05 鶴見俊輔——後ろ向きの前進……………86

はじめに／鶴見俊輔の「原理」／失敗にこだわる／「正義」への不信／拠点としての「日常」／高度成長以後／おわりに

06 橋川文三——「イロニイ的存在」としての「煩悶」のビジョン……………108

はじめに／原体験に内在する普遍的「煩悶」／「普遍性」から導か

れる個別的「煩悶」／構造的「煩悶」で深化した「普遍性／特殊性」／おわりに

07 吉本隆明——個人と共同体のあいだ……………126

はじめに／生き残った者たち…戦後という問題／転向論の問題構成
／擬制とネーション／マイホームの生／おわりに

Column ② 沖 縄——日本を相対化する試み……………145

III 戦後思想の新展開

08 石牟礼道子——もうひとつのこの世はどこにあるのか……………148

はじめに／谷川雁との出会い／現代を象徴する水俣病事件／もうひとつのこの世はどこにあるのか／おわりに

09 松下圭一——高度成長期の変革思想……………169

はじめに／大衆社会論の射程／革新ナシヨナリズム論・地域民主主義論の展開／「市民」論の展開と問題性／おわりに

IV 戦後思想の現在

10 小田実——第三世界を見すえた知の旅人……………187

はじめに／本章の課題設定…小田の世界認識／議論の前提／「南洋」の位置づけ／「判ラナイ」ことからの意味転換／おわりに

Column ③ フェミニニズム——ラディカル根源的な解放を求めて……………206

11 見田宗介——戦後思想の「幸福」に向けた〈転回〉……………210

はじめに／明るさと深さをめざして…本章のねらい／「戦後社会」との関係のなかで…「近代」との葛藤／「旅」の時代…「近代」から遠く離れて／〈自由〉な社会をめざして…「現代」への回帰／おわりに

12 柄谷行人——社会主義的ユートピアに向けて……………230

はじめに／自由の存在論的ポジション／構築主義と形式化の諸問題／東西冷戦とそのオルタナティヴ／可能なるユートピア思想

Column ④ 梶村秀樹の思想——朝鮮史を通して人間性回復の道を探る……………252

終 『戦後思想の再審判』からのメッセージ……………255

あとがき

参考文献一覧

執筆者紹介